

## 編集後記

原研一期生 50 周年同期会事務局 別役 廣

さる 4 月 8 日に日本青年館で開かれた原研一期生の同期会には、26 名の方に参加していただきました。当日の出席者に「今後の同期会の持ち方等」に関してアンケート調査を行いました。賛成多数で「原研一期生 50 周年記念文集」を作ることになり、5 月 30 日に執筆の依頼をお願いしました。現在までにお送りいただいた原稿は 22 通です。アンケートにご賛同いただきました方のほぼ全員の方がご寄稿下さいました。

集まりました原稿を拝見いたしますと、投稿者のそれぞれの立場で原研が描かれており、一期生の見た原研 50 年という感じの文集になりました。

ご協力本当に有り難うございました。幹事一同厚くお礼申し上げます。

### 原研一期生同期会用ホームページについて

私宅が事務局に指定されましたので、送付されました原稿を速やかに閲覧できるようにと考えて、以前に作りましたパソコン研究会用のホームページを改造して、「原研一期生専用のホームページ」を作成してみました。多少はお役に立てたでしょうか。

URL: <http://park17.wakwak.com/~tokai/PCC/index.html>

この HP には次のような特徴がありますので、これからもご活用下さい。

- ① 旧 HP から引き継いで、「原子村雑誌版」と「原子村電子版」が閲覧できる。
- ② 記念文集では、印刷して配布することを考えて、A4 版 2 頁に制限いたしました。2 頁では足りない方、または同期会に公表したい、または公表してもよい文献や資料をお持ちの方は、事務局宛にお送り下さると参考文献としてアップロードして閲覧できるようにします。(吉田様、ご協力有り難うございました。)
- ③ ホームページを開いておられる方にはリンクが張れますのでお知らせ下さい。(吉田様、堀様ご協力有り難うございました。)

### 日本原子力学会のホームページについて

原子力に関係しておられる皆様は、「日本原子力学会のホームページ」を一度は覗かれたことがあると思います。URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/index.html>  
思いがけないことから、学会の HP の制作を引き受けることになり現在も管理維持に協力しております。事情は次のようです。

2003 年 4 月にパソコン研究会に対して、齋籐伸三原研理事長からインフォメーションプラザの飯島氏を通して日本原子力学会（以下学会）のホームページの改良についての協力依頼があった。齋藤理事長は学会の副会長として学会ホームページ委員会の先生方と相談して、学会は金がないのでボランティア的にやってもらえるところを探しておられた。(たとえば NEDAC に外注すると 500 万円かかるとのことだった。)

たまたまわれわれの研究会の活動を知っておられた飯島氏が当会に引き受けの可能性を問い合わせてこられた。グループ内で相談の結果、インフォメーションプラザが主体になって引き受ける、パソコン研究会は実行部隊として行動する、この開発のためインターネットに接続したパソコン1台を用意してもらうということで、作業を開始した。

7月に試作品を作成し、学会の先生方のご意見を頂いて改良を重ねた。通常ホームページのトップページでは、原研のHPのように動画を用いて見栄えを良くしている。これらに比べると学会の方が更新作業をすることを考えて、このホームページではテキストベースにしたため多少見劣りしている。しかしボタンをクリックするだけで、目的の項目に跳ぶようにして操作性は良くしてある。2004年2月から正式運用を開始して、現在までのアクセス数は47万件になっている。

### 原研インフォメーションプラザ東海

インフォメーションプラザ東海は原研の研究成果などの原子力情報発信窓口として開設されました。1階の展示室にはクラウドチェンバーなどの展示があり、原子力関係の図書などを閲覧することができます。また、原子力科学研究所の見学申込みも受け付けています。テクニカルアドバイザーが見学者の案内をしています。

私も飯島さんに勧められて2001年からテクニカルアドバイザーをしています。

### パソコン研究会

パソコン研究会の前身は、1995年6月に発足した「原子力研究支援技術者集団」です。当初は天野恕氏を始めとして錚々たる方々が名を連ねておりました。同期生の五藤博さんと吉田廣さんは当初からのメンバーです。月に一度の例会は続いていましたが、1999年10月に真崎コミセンに会場が変更になりました。

その際に「支援技術者集団」という名前では、差し障りがあるかもしれないとのことで、「パソコン研究会」という名称で会場を借りることにしたとのことです。そのためか「パソコン研究会」という名前に惹かれて入会する者が増えて、現在では当初の目的とは可成り異なった会になっています。私は2002年1月に入会しました。

2002年5月から会場は原研インフォメーションプラザ東海の会議室に移りました。毎月第三木曜日には「パソコン研究会」と称して、パソコン、科学、社会、健康、趣味、その他諸々のことを話題にして楽しんでおります。

毎月第一木曜日には「パソコン勉強会」と称して、パソコンのソフト・ハードの実習をしております。今皆で取り組んでいるのが、ノートパソコンにWindowsとLinuxのOSをダブルインストールして、どちらのソフトも使えるようにすることです。Linuxでは便利なソフトが無償で使えるので、年金生活者には大変魅力があります。

同期生の中村知夫さんと吉田廣さんは毎回出席しています。興味のある方は是非ご参加下さい。

## 原研 35 年の研究生活

昭和 32 年 4 月に原研に入所して平成 4 年 3 月に定年退職するまでの 35 年間、物理部固体物理系の研究室で研究を行いました。

この間の研究内容は以下のように分類されます：

- 1) 昭和 36 年～46 年 核磁気共鳴法を用いた相転移機構の研究
- 2) 昭和 46 年～54 年 中性子散乱実験による相転移機構の研究
- 3) 昭和 52 年～平成 4 年 計算機シミュレーションによる相転移機構の研究

最後の 15 年は、主として計算機シミュレーションによる研究を行いました。原研の大型計算機の威力を借りて大学関係者では出来ないような研究が行えました。

ここに至る迄の経過は **Computer** 情報に詳報してあります。定年退職後には、未発表の論文をまとめて観光旅行を兼ねて海外の国際会議で発表しました。

35 年間を今改めて思い返すとつらいこともありましたが、プログラム作成に熱中していた頃の充実感が懐かしく思い出されます。

[参考文献 1](#)： 別役 廣「私の計算機実験」 **Computer 情報 No.53 (1992) 49-60**

[参考文献 2](#)： 国際会議等発表記録

## 茨城大学工学部システム工学科

原研で行っていた計算機シミュレーションの手法は、見方を変えるとシステム工学の手法に適用できます。この関係で原研退職後足かけ 7 年間、茨城大学工学部のシステム工学科で教鞭を執りました。システム工学科には 2 部の学生がいて夜間にも授業しなければならないなど、いろいろと大変なこともありましたが、学生を相手にして有益な時間を過ごすことが出来ました。このような得難い機会を持てたことに今は感謝しています。

### 別役 廣 (べつやく ひろし) 略歴

- |           |                                                |
|-----------|------------------------------------------------|
| 1957      | 東京工業大学理工学部 卒業                                  |
| 1957-1992 | 日本原子力研究所研究員 物理部固体物理系に在籍<br>在職中に大阪大学より工学博士の学位授与 |
| 1992-1998 | 茨城大学工学部システム工学科教授                               |
| 2001-     | 原研インフォメーションプラザ東海 テクニカルアドバイザー                   |
| 2002-     | パソコン研究会                                        |